Ⅲ　競技スポーツ

1　競技スポーツの概要と本県の取組

競技スポーツは、より速く、より高く、より強く、より美しくを目標とするスポーツである。勝つことや記録に挑戦するために「技と力」を磨き、能力の極限に立ち向かう活動であり、新たなスポーツ文化の創造・発展に多大な貢献をしている。

国民体育大会等の各種大会での本県選手の活躍は、県民に明るさと活力を与え、本県スポーツの推進に大きく寄与している。このため、本県では、優れた能力を持つジュニア選手の発掘・育成・強化、指導者の養成、スポーツ医・科学の活用等により、高い競技力を持つ選手の育成に取り組むとともに、千葉県民体育大会の開催、各種スポーツ大会の後援、スポーツ団体の育成等をとおして、本県競技力の恒常的な維持・発展に努めている。

こうした中、平成17年の全国高等学校総合体育大会「2005千葉きらめき総体」、平成22年の第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」に向け、本県選手が優秀な成績をおさめることができるよう、選手強化の中核的組織として、平成14年3月に千葉県競技力向上推進本部を設立し、関係団体と連携を図りながら長期的・計画的な取り組みを推進した。

その結果、「2005千葉きらめき総体」では過去最高の入賞数を獲得、「ゆめ半島千葉国体」では、天皇杯・皇后杯獲得による完全優勝を達成し、選手と地域が一体となって「日本一」を味わい、県民に大きな感動を与えるとともに、この国体の成功を背景に、「千葉県体育・スポーツ振興条例」が制定されるなど、スポーツ振興の総合的かつ計画的な施策も推進された。

これらの成果を一過性に終わらせることなく、しっかり引き継いで県民の活力・県勢の発展につなげるため、国体で培われた土壌を活かし、さらに県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、国民体育大会の上位入賞と未来のアスリートの発掘・育成・強化に努め人々に感動を与える競技力の向上に取り組んでいく。

2　スポーツ大会の開催

（１）県民体育大会の開催

県民体育大会は、昭和23年度から68回の歴史を有し、広く県民の間にスポーツを普及し県民の健康増進と体力の向上を図り、県民生活を明るく豊かにすることを趣旨に開催されている。大会には県スポーツ協会加盟33郡市体育協会から約10,000人が参加し、地域の代表が力と技を競う、本県最大の競技スポーツの祭典として県民に親しまれている。平成元年度から平成14年度までは、県内５地域を巡回、平成15年度からは全国高校総体及び国民体育大会の会場地で開催することとなった。平成17年度は高校総体、平成21年度・22年度は国民体育大会のため休止したが、平成23年度第61回夏季・秋季大会から再開された。なお、再開に当たり、大会規模の見直しや、受益者負担や広告協賛など、新たな大会運営を導入している。

県民体育大会　男子・女子成績

開催年度	28	29	30	R1	R2	R3
回　数	66	67	68	69	70	71
男子優勝	千葉	千葉	千葉	船橋	中止	中止
女子優勝	千葉	千葉	船橋	千葉	中止	中止

県民体育大会　男女総合成績

開催年度	28	29	30	R1	R2	R3
回　数	66	67	68	69	70	71
１　位	千葉	千葉	千葉	千葉	中止	中止
２　位	船橋	船橋	船橋	船橋	中止	中止
３　位	市川	松戸	市川	市川	中止	中止

競 技 別 成 績（男子）

性別	競技	開催年度	28	29	30	R1	R2	R3
		回　数	66	67	68	69	70	71
男子	スキー		柏	千葉	柏	柏	中止	中止
	スケート		千葉	千葉	千葉	千葉	船橋	千葉
	水泳		千葉	千葉	船橋	千葉	中止	中止
	ヨット		柏	館山	浦安	浦安	中止	中止
	ボート		香取市	香取	香取	香取	中止	中止
	陸上競技		千葉	千葉	野田	柏	中止	中止
	バレーボール		千葉	印旛郡市	千葉	千葉	中止	中止
	クレー射撃		山武郡市	印旛郡市	千葉	印旛郡市	中止	中止
	体操		市原	市原	千葉	船橋	中止	中止
	相撲		木更津	木更津	市原	市川	中止	中止
	テニス		松戸	千葉・松戸 印旛郡・柏	印旛郡	八千代	中止	中止
	軟式野球		茂原	茂原・市原	野田	流山	中止	中止
	卓球		市川	（中止）	君津	千葉	中止	中止
	弓道		千葉	千葉	匝瑳	千葉	中止	中止
	ソフトボール		松戸	船橋	市原	流山	中止	中止
	柔道		船橋	船橋	船橋	船橋	中止	中止
	剣道		木更津	柏	柏	勝浦	中止	中止
	ソフトテニス		市川	市川・木更津 松戸・山武郡	市川	市川	中止	中止
	バドミントン		柏	船橋	野田	船橋	中止	中止
	サッカー		市川	船橋	船橋	君津	中止	中止
	ラグビー		千葉	（中止）	千葉	市川	中止	中止
	フットボール		船橋		市川	千葉	中止	中止
	バスケットボール		習志野	船橋	鎌ケ谷	船橋	中止	中止
	ハンドボール		市川	市川	市川	市川	中止	中止
	ボクシング		習志野	習志野	習志野	流山	中止	中止
	フェンシング		船橋	市川	船橋	船橋	中止	中止
	レスリング		柏	柏	柏	柏	中止	中止
	空手道		流山	流山	木更津	流山	中止	中止
	ライフル射撃		印旛郡市	船橋	船橋	茂原	中止	中止
	銃剣道		船橋	船橋	船橋	船橋	中止	中止
	自転車		印旛郡市	松戸	千葉	千葉	中止	中止
	山岳		船橋	千葉	市川	千葉	中止	中止
	ホッケー		市川	（中止）	いすみ	いすみ	中止	中止
	ウエイトリフティング		八千代	八千代	市川	市川	中止	中止
	アーチェリー		松戸	船橋	流山	船橋	中止	中止
	ゴルフ		柏	山武郡市	千葉	印旛郡市	中止	中止
	ボウリング		山武郡市	松戸	松戸	君津	中止	中止
	馬術		香取	香取	成田	山武郡市	中止	中止
	カヌー		浦安	香取	香取	香取	中止	中止

競 技 別 成 績（女子）

性別	競技	開催年度	28	29	30	R1	R2	R3
		回　数	66	67	68	69	70	71
女子	スキー		柏	千葉	千葉	柏	中止	中止
	スケート		千葉	千葉	千葉	千葉	八千代	柏
	水泳		千葉	千葉	千葉	千葉	中止	中止
	ヨット		我孫子	船橋	我孫子	我孫子	中止	中止
	ボート		香取 夷隅郡	香取	香取	船橋 香取	中止 中止	中止 中止
	陸上競技		松戸	松戸	流山	印旛郡市	中止	中止
	バレーボール		千葉	千葉	千葉	千葉	中止	中止
	体操		市川	市川	銚子	市川	中止	中止
	テニス		男女混合				中止	中止
	卓球		市川	（中止）	印旛郡	千葉	中止	中止
	ソフトボール		市川	市原	市原	柏	中止	中止
	ソフトテニス		松戸	印旛郡	我孫子	我孫子	中止	中止
	バドミントン		野田	市原	野田	市原	中止	中止
	サッカー		船橋	船橋	市原	市川	中止	中止
	バスケットボール		浦安	浦安	浦安	浦安	中止	中止
	ハンドボール		市川	千葉	市川	市川	中止	中止
	フェンシング		千葉	船橋	松戸	船橋	中止	中止
	空手道		浦安	習志野	八千代	八千代	中止	中止
	山岳		千葉	千葉	松戸	松戸	中止	中止
	なぎなた		船橋	船橋	船橋	開催なし	中止	中止
	ボウリング		習志野	市川	習志野	市川	中止	中止
	カヌー		松戸	香取	印旛郡	香取	中止	中止

（２）国民体育大会千葉県大会（千葉県民体育大会第二部）の開催

国民体育大会千葉県大会は、国民体育大会に優秀な選手団を派遣するための予選会（選考会）で、本県競技スポーツの最高の技術水準を持つ競技者が熱戦を繰り広げる大会である。

この大会は、国民体育大会開催基準要項の改正に伴い、いわゆる「積み上げ方式」による開かれた国体を目指す新しい国体の在り方が提示され、昭和55年度からブロック大会、県大会の開催が正式に位置づけられたことによる。

ア　過去５か年の概略

平成29年度から令和3年度までの大会の実施状況は下表のとおりである。

年度	会　期	実施競技	参加者数
２９	平成２９年４月 ～平成３０年１月	正式競技　４０	２６，６５３
３０	平成３０年４月 ～平成３１年１月	正式競技　４０	２６，６８５
Ｒ１	平成３１年４月 ～令和 ２ 年１月	正式競技　４０	２５，９５７
Ｒ２	令和　２年４月 ～令和 ３ 年１月	正式競技　２	２７３
Ｒ３	令和　３年１月 ～令和 ４ 年１月	正式競技　４０	１０，５７０

イ　国民体育大会参加者傷害補償制度

日本体育協会及び都道府県体育協会が、国民体育大会の参加者の傷害事故に備えるために制定したもので、都道府県大会以上の国体参加者の傷害事故に対して、参加者の相互扶助により、補償しようとするもので、昭和57年度大会から、国体千葉県大会の参加者に協力を呼びかけている。平成21年度からは、県予選を対象外とし、ブロック大会・本大会のみが対象となった。期間中の事故については、この制度の補償対象として補償金の給付がある。

ウ　令和４年度大会の概要

令和４年度大会は、40競技に約10,000名の選手・監督・役員の参加を得て開催の予定である。なお、競技会場及び日程は（公財）千葉県スポーツ協会ホームページで公開している。

（３）国内スポーツ大会等の共催・後援

各種スポーツ大会等の一層の充実を図り、競技スポーツの発展に資するため、競技団体等が主催する大会等に対し、申請に応じて共催及び後援をしている。過去６年間に共催・後援した大会等は下表のとおりである。

千葉県教育委員会共催・後援事業

年度	28	29	30	R1	R2	R3
共　催　事　業	2件	2件	1件	2件	2件	2件
後　援　事　業	100件	82件	90件	75件	53件	56件
補助金等（負担金・補助金）交付事業	0件	0件	0件	0件	18件	0件

※補助金等（負担金・補助金）交付事業は、代替大会を実施。(R2)

３　スポーツ大会への派遣

（１）国民体育大会への選手団の派遣

国民体育大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を図るとともに、地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するため、昭和21年に京阪神地方で初めて開催され、その後、各県持ち回りで毎年開催されている。昭和63年第43回大会（冬季－群馬・岩手、夏・秋季－京都）から２巡目がスタートし、本年（冬季大会－栃木・秋田、本大会－三重）で76回目を迎える。現在では選手、監督、大会役員などの参加数も４万人を超え、国内最大のスポーツの祭典となっている。

第１回大会から第75回大会までに延べ39,698名の選手団を派遣している。第76回大会はすでに冬季大会が終了し、57名の選手団を派遣した。本大会には、各競技の精鋭を下表の日程で派遣する予定である。

第76回国民体育大会への千葉県選手団の派遣

季　別		期　日	会　場	参加人員・実施競技
冬季大会	スケート	R3年 1月27日 ～ 1月31日	*スケート競技 岐阜県恵那市 愛知県名古屋市 *アイスホッケー競技 愛知県豊橋市、長久手市	本部12・監督4・選手12 計28名 本部12・監督1・選手16 計29名
	スキー	R3年 2月18日 ～ 2月21日	秋田県鹿角市	中止
本大会		R3年9月25日 ～10月　5日 ※会期前競技9月4日～20日	三重県内	正式競技 37競技 特別競技 1競技・公開競技 5競技

国民体育大会の年次別派遣人員と競技成績

回数	夏・秋季大会開催会場	派遣人数	天皇杯	皇后杯	回数	開催会場	派遣人数	天皇杯	皇后杯
1	京都・大阪・滋賀・奈良・兵庫	62			39	奈良・兵庫	629	5	10
2	石川・滋賀	248			40	鳥取	581	8	13
3	福岡	278	36	29	41	山梨	666	9	9
4	東京・神奈川・千葉・山梨・埼玉	279	16	25	42	沖縄	592	20	18
5	愛知・三重	324	16	23	43	京都	585	11	10
6	広島・山口・鳥取	343	11	15	44	北海道	629	10	11
7	福島・宮城・山形・栃木	427	14	27	45	福岡	628	10	11
8	愛媛・香川・徳島・高知	425	13	29	46	石川	658	9	12
9	北海道・奈良	294	19	18	47	山形	609	13	16
10	神奈川	322	39	39	48	香川・徳島	663	10	15
11	兵庫	264	21	28	49	愛知	655	11	12
12	静岡	311	21	42	50	福島	540	10	15
13	富山	292	25	32	51	広島	633	12	15
14	東京・埼玉	347	24	41	52	大阪	645	13	15
15	熊本	317	24	21	53	神奈川	667	9	10
16	秋田・宮城・福島	309	17	21	54	熊本	613	12	17
17	岡山	387	22	33	55	富山	623	13	16
18	山口	374	28	24	56	宮城	654	13	15
19	新潟	369	21	28	57	高知	653	12	9
20	岐阜	409	12	30	58	静岡	599	15	11
21	大分	382	22	22	59	埼玉	752	10	11
22	埼玉	424	32	23	60	岡山	678	12	11
23	福井	440	32	23	61	兵庫	731	9	10
24	長崎	416	27	33	62	秋田	678	8	10
25	岩手・青森	495	7	25	63	大分	562	6	9
26	和歌山	475	19	30	64	新潟	630	6	5
27	鹿児島・熊本	504	12	13	65	千葉	1039	1	1
28	千葉	965	1	2	66	山口	610	7	6
29	茨城	558	8	8	67	岐阜	529	7	7
30	三重	594	13	13	68	東京	648	7	5
31	佐賀	565	20	17	69	長崎	603	10	6
32	青森	573	9	6	70	和歌山	637	7	6
33	長野	508	16	13	71	岩手	601	5	7
34	宮崎	605	8	6	72	愛媛	605	8	6
35	栃木・千葉・埼玉	626	9	5	73	福井	682	5	7
36	滋賀	580	7	5	74	茨城	597	7	7
37	島根	639	7	6	75	鹿児島	延期	なし	なし
38	群馬	629	5	9	76	三重	中止	なし	なし

※天皇杯・皇后杯は順位

（２）国民体育大会関東ブロック大会への選手団の派遣

関東ブロック大会は国民体育大会の関東地区予選として昭和55年神奈川県で初めて開催され、その後関東各都県持ち回りで毎年開催されている。それ以前は、各競技ごとに予選を実施していたが、総合的に開催されることによって、各都県の親善と友好をより一層深めるとともに、関東地区のスポーツの推進に大きく貢献している。

第77回大会冬季大会アイスホッケー競技会に、本県は29名の選手団を派遣した。本大会に係る予選会は、東京都で開催される。

４　千葉県競技力向上推進本部事業

「2005千葉きらめき総体」や平成22年開催の「ゆめ半島千葉国体」において、本県選手が優秀な成績をおさめることができるよう計画的・継続的に選手を育成・強化するとともに、この両大会の開催を契機に本県の競技力が一層向上し、併せてスポーツを通じた「ひとづくり」、「地域づくり」を展開する中核的組織として平成14年3月19日（規約の施行）に千葉県競技力向上推進本部を設立した。

推進本部は、関係団体と連携を図りながら諸事業を展開し、その結果、「ゆめ半島千葉国体」では県史上初の完全優勝を達成、本県の競技力の高さを全国に示すとともに、日本一の感動を選手と県民が共有し、スポーツへの参画気運を高めるなど、本県スポーツの発展に大きく寄与している。

今後も、本県の競技力の恒常的な維持・発展を目指し、推進本部を中心として強化事業を展開していく。

（１）本部委員構成（令和３年度）

本 部 長　　滝川伸輔副知事

副本部長　　齋藤雅文県スポーツ協会競技力向上委員会委員長・田上昌宏県障がい者スポーツ協会会長・冨塚昌子県教育委員会教育長

本部委員　　県議会・スポーツ団体・学校関係・企業団体・市町村教育長
学識経験者・整形外科医・臨床心理士・栄養士・スポーツ指導者　（合計20名）

（２）実施事業

基本施策・事業名	内　　容
Ⅰ選手の育成・強化、指導者の養成確保 （１）国体選手強化・サポート事業 （２）ちばジュニア強化事業 （３）オリンピックアスリート強化・支援事業 （４）パラアスリート強化・支援事業	国体本大会・国体冬季大会の出場選手強化 ・選手強化支援（強化練習会、強化合宿、県外遠征等） ・コーチ、トレーナー等の国体派遣 ・強化コーチ養成支援 ジュニア年代（小学生～高校生）の発掘・育成・強化 ・選手強化支援（スポーツ教室、強化練習会、強化合宿） ・競技会開催支援、強化コーチ養成支援、強化選手、指導者指定　等 ・オリンピック出場を目指す本県ゆかりのアスリートを継続的に強化・支援 ・パラリンピック出場を目指す本県ゆかりのパラアスリートを継続的に強化・支援
Ⅱ競技力向上のための環境整備 （５）競技用具等の整備事業 （６）トップチーム支援事業	強化練習等に必要な競技用具等の整備 各競技の主軸となる企業運動部、民間スポーツクラブ、大学等を指定し、強化活動を支援
Ⅲスポーツ医・科学の積極的な活用 （７）マルチコンディショニングサポート事業	競技の特性や競技者の実情に応じた医・科学サポート ①運動能力測定　測定・相談、障害相談、栄養状況調査・相談、ドーピング防止研修会等 ②トレーナー派遣　　選手強化及び国民体育大会へのトレーナー派遣 ③メディカルチェック　国体選手の健康診断
Ⅳ調査・研究の充実 （８）国体選手選考・強化活動調査事業	競技力の現状把握、国体選手の選考等 競技力向上委員会開催（年10回）、強化活動視察（4月～各地）、競技別ヒアリング、先催県等他県調査・研究 戦力分析会議（年5回）
Ⅴ各競技会開催、国際スポーツ交流の充実	・県民大会開催の充実・第74回国民体育大会関東ブロック大会の開催 ・国際スポーツ交流への協力
Ⅵ競技スポーツの好循環 （９）トップアスリート等活用事業 （１０）アスリートキャリア開発研究	県内トップアスリート等のスポーツ資源を還元 ・オリンピック・パラリンピック選手、国体選手や指導者を学校や地域へ派遣 アスリートの就職支援の調査・研究、ヒアリング

（３）国体対策委員会総会の開催

選手強化を推進する上で、指導者がそれぞれ研修を深め、資質の向上を図ることは重要なことであることから、県スポーツ協会競技力向上委員会は、指導者としての専門性や総合的な知識を得るため各界の有識者を招請し、国体対策委員会総会（40競技団体のヘッドコーチ、種別監督等約200人）において講演会等を開催し研修に努めており、平成15年度からは、千葉県競技力向上推進本部の主催により行っている。

過去の講演会・講演者一覧

年度	役　職　等	氏　　名	演　　題
５５年	日本体育協会競技力向上委員会	神山　信義	
５６年	日本サッカー協会専務理事	岡野俊一郎	「競技スポーツの強化方策」
５７年	順天堂大学教授	太田　哲男	「精神力のトレーニング」
５８年	日本バレーボール協会専務理事	松平　康隆	「負けてたまるか！！」
５９年	サッカー　ヤンマーディーゼル監督	釜本　邦茂	「我がサッカー人生」
６０年	日本体操協会女子ナショナルチーム強化部長	塚原　光男	「ジュニア強化対策と競技力向上」
６１年	東海大学教授	佐藤　宣践	「スポーツにおける指導者の役割」
６２年	元早稲田大学教授ＪＯＣ委員	大西鉄之祐	「勝チームを作るために」
６３年	日本体育協会公認スポーツドクター 世界射撃連盟医事委員	霜　礼次郎	「チャンピオンへの道」
元年	国際武道大学助教授 全日本柔道連盟国際委員会委員 関東学生柔道連盟副理事長	柏崎　克彦	「『私と柔道』勝たせる指導者とは」
２年	日本大学教授	早田　卓次	「体育・スポーツ指導者の役割」
３年	千葉県軟式庭球連盟会長	岡田　　脩	「競技力向上と組織強化について」
４年	ソウルオリンピック金メダリスト	小林　孝至	「金メダルへの道」
５年	スポーツ医・科学研究所常務理事	松井　秀治	「トップアスリート育成のために」
６年	ＮＨＫアナウンサー	刈屋富士雄	「スポーツ放送を通じての指導者たち」
７年	リクルートランニングクラブ監督	小出　義雄	「限りない可能性と勝利について」
８年	フジテレビアナウンサー	松倉　悦郎	「価遇」テレビ・人・ふれ愛
９年	バルセロナオリンピック銀メダリスト アトランタオリンピック銅メダリスト	有森　裕子	「夢を力に」
１２年	千葉県サッカー協会理事長 千葉県サッカー協会技術委員	梶原由紀夫 今泉　守正	「サッカー王国への道」 〃
１３年	（財）千葉県体育協会副会長	市川恭一郎	「マーベリック（異端）について」
１４年	セイコーインスツルメンツ（株） 相談役	伊藤　　潔	「リーダーの条件」
１５年	三井住友海上火災女子柔道部監督	柳沢　　久	「世界チャンピオンをめざして・・・勝つことへのこだわり」
１６年	卓球指導者	古川　敏明	「優勝へのヒント」
１７年	順天堂大学教授	加納　　實	「金メダルへの道～アテネオリンピックを振り返って」
１８年	千葉明徳高等学校長	上野　正裕	「2005千葉きらめき総体」から「ゆめ半島千葉国体へ」
１９年	（財）全日本柔道連盟女子強化委員	山口　　香	「意志あれば道あり」
２０年	(財) 日本ラグビーフットボール協会名誉会長	日比野　弘	「勝つためのコーチング」
２１年	NPO法人日本ランナーズ理事長	金　　哲彦	「日本長距離界の再生」
２２年	参議院議員	橋本　聖子	「スポーツを通じた人材育成」
２３年	県立安房高等学校教諭	所　　正孝	「高校三冠への道程」
２４年	（株）日立柏レイソル代表取締役社長	御手洗尚樹	「J2からJ1チャンピオンへ」
２５年	北野建設ゼネラルマネジャー	荻原　健司	「スターはつくられた」

２６年	日本体育大学助教授	田中　理恵	「オリンピックと私」
２７年	中京大学名誉教授	室伏　重信	「競技スポーツと人の可能性について」
２８年	元全日本女子バレーボール監督 現仙台ベルフィーユ監督	葛和　伸元	「指導者としての心掛け」
２９年	元全日本バスケットボールチーム主将 アトランタオリンピック代表	原田　裕花	「あきらめない心 ～私のバスケットボール人生～」
３０年	元車いすマラソン選手 アテネパラリンピック・ロンドンパラリンピック代表	花岡　伸和	「勝利の先を目指して」
令和 元年	(公財)日本サッカー協会技術委員長 ロンドンオリンピックサッカー男子監督	関塚　隆	「ひとりひとりの夢、そして、その先へ！」 ～“人間力”の大切さ～

※令和２、３年度は、新型コロナウイルス感染防止対策により、中止。

（４）国民体育大会入賞者表彰

千葉県競技力向上推進本部表彰規程により、国体入賞者の本県スポーツ界への多大な功績を認め、選手・監督及び団体を表彰している。令和２年度は、国民体育大会（本大会）中止のため表彰は実施していない。　　※昭和56年度～平成14年度（財)千葉県体育協会で表彰

第７６回国民体育大会千葉県選手団入賞者数

季別	№.	競技名	１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位	入賞選手総数	競技別入賞 天皇杯	競技別入賞 皇后杯
冬季	1	スケート			6						6	①	①
	2	アイスホッケー			１６						１６	①	
	3	スキー									0		
		［小　　計］	0	0	２２	0	0	0	0	0	２２	②	①
本大会	1	陸上競技									0		
	2	水泳									0		
	3	サッカー									0		
	4	テニス									0		
	5	ボート									0		
	6	ホッケー									0		
	7	ボクシング									0		
	8	バレーボール									0		
	9	体操									0		
	10	バスケットボール									0		
	11	レスリング									0		
	12	セーリング									0		
	13	ウエイトリフティング									0		
	14	ハンドボール									0		
	15	自転車									0		
	16	ソフトテニス									0		
	17	卓球									0		
	18	軟式野球									0		
	19	相撲									0		
	20	馬術									0		
	21	フェンシング									0		
	22	柔道									0		
	23	ソフトボール									0		
	24	バドミントン									0		
	25	弓道									0		

	26	ライフル射撃									0		
	27	剣道									0		
	28	ラグビーフットボール									0		
	29	ｽﾎﾟｰﾂｸﾗｲﾐﾝｸﾞ									0		
	30	カヌー									0		
	31	アーチェリー									0		
	32	空手道									0		
	33	クレー射撃									0		
	34	なぎなた									0		
	35	ボウリング									0		
	36	ゴルフ									0		
	37	トライアスロン									0		
	［小　　計］										0		
合　　計			0	0	22	0	0	0	0	0	22	2	1

５　スポーツ団体の育成

公益財団法人千葉県スポーツ協会（以下、県スポーツ協会という）及びその加盟団体は、県内スポーツの普及・育成と競技力向上の２大目標に向かって事業の推進にあたっている。

県スポーツ協会は県民体育大会、国体千葉県大会など競技会の開催、各種講習会の開催、指導者養成等の各種講習会の開催、スポーツ少年団活動、スポーツ医事・科学の研究など、本県スポーツを総合的・計画的に推進している。このため、県スポーツ協会に対し助成を行い、こうした諸事業の自主的な活動の推進と円滑な運営を図っている。

（１）組織の確立

県民の健康体力に対する関心が高まるにつれて、自らスポーツを実践しようとする人々が増加してきているため、多くの競技種目において、各年齢層の多様なニーズに対応する適切な指導、組織整備の確立が求められている。

このため、県スポーツ協会をはじめ各競技団体など県を統括する諸団体事務局と密接な連携が保たれるような対策が必要である。「ゆめ半島千葉国体」開催を契機に、一層の連携・協力を図り支援及び協力体制の確立を進めていく必要がある。

（２）スポーツ指導者の育成

公益財団法人日本スポーツ協会は、都道府県体育（スポーツ）協会と認定競技団体の推薦により、競技種目ごとに専門的知識・技能を有する指導者と競技種目を横断する知識・技能を有する指導者の資格認定及び養成事業を行っている。本県の競技種目ごとに専門的知識・技能を有する指導者は、7,006 名（含旧資格３名）となっている（令和３年 10 月登録分）。競技人口の増加、参加層の拡大の時代にあって、スポーツ指導者の正しいモラルと専門性の高い知識は一層必要とされるものであり、このようなスポーツ指導者資格取得を推奨するとともに、登録指導者の活躍の場も一層広げられるよう検討する必要がある。

公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

ア　競技別指導者

（スタートコーチ・コーチ 1・コーチ 2・コーチ 3・コーチ 4・教師・上級教師）5,547 人

イ　スポーツ指導者基礎資格・・・・・・・・・261 人

ウ　スポーツプログラマー・・・・・・・・・・198 人

エ　フィットネストレーナー・・・・・・・・・ 24 人

オ　ジュニアスポーツ指導員・・・・・・・・・199 人

カ　アスレティックトレーナー・・・・・・・ 336 人

キ　スポーツドクター・・・・・・・・・・・・ 225 人

ク　スポーツデンティスト ・・・・・・・・・・19 人

ケ　スポーツ栄養士・・・・・・・・・・・・・ 10 人

コ　アシスタントマネジャー・・・・・・・・・ 169 人

サ　クラブマネージャー・・・・・・・・・・・15 人

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者認定状況
（2021年10月現在）

競技（種別）・資格別認定者数　　（人）

	資格 / 競技（種別）		スタートコーチ	コーチ				教師		合計
				コーチ1	コーチ2	コーチ3	コーチ4	教師	上級教師	
1	陸上競技		−	131	3	44	7	−	−	185
2	水泳		−	182	12	144	31	75	11	455
3	サッカー		−	1,406	0	316	131	−	−	1,853
4	スキー	スキー	−	9	36	1	1	1	2	50
5		スノーボード	−	0	0	0	0	−	−	0
6	テニス		−	54	46	7	6	14	7	134
7	ボート		−	4	0	11	1	−	−	16
8	ホッケー		−	1	0	15	1	−	−	17
9	ボクシング		−	0	0	9	0	−	−	9
10	バレーボール		1	345	7	30	12	−	−	395
11	体操	体操	−	8	0	0	−	−	−	8
12		体操競技	−	0	0	33	3	−	−	36
13		新体操	−	0	0	31	1	−	−	32
14		トランポリン	−	0	0	3	−	−	−	3
15	バスケットボール		−	372	0	31	14	−	−	417
16	スケート		−	3	0	4	0	3	−	10
17	レスリング		−	14	0	1	1	−	−	16
18	セーリング		−	13	3	2	3	−	−	21
19	ウエイトリフティング		−	2	−	3	0	−	−	5
20	ハンドボール		3	16	0	19	2	−	−	40
21	自転車競技		−	6	0	14	2	−	−	22
22	ソフトテニス		−	49	2	2	2	−	−	55
23	卓球		−	108	37	36	5	−	−	186
24	軟式野球		−	59	0	6	−	−	−	65
25	相撲		−	4	0	0	−	−	−	4
26	馬術		−	0	0	23	−	−	−	23
27	フェンシング		−	14	0	6	0	−	−	20
28	柔道		−	15	0	12	2	−	−	29
29	ソフトボール		−	214	19	21	2	−	−	256
30	バドミントン		−	48	37	8	2	−	−	95
31	弓道		−	251	0	3	−	−	−	254
32	ライフル射撃		−	0	0	7	2	−	−	9
33	剣道		−	56	19	−	−	−	−	75
34	近代五種		−	0	0	0	0	−	−	0
35	ラグビーフットボール		−	44	2	64	5	−	−	115
36	山岳・スポーツクライミング	山岳	−	18	11	0	1	−	−	30
37		スポーツクライミング	−	19	8	1	0	−	−	28
38	カヌー		−	8	0	11	0	−	−	19
39	アーチェリー		−	34	0	1	−	−	−	35
40	空手道		−	108	35	30	22	−	−	195
41	アイスホッケー		−	4	0	−	0	−	−	4
42	銃剣道		−	13	3	−	−	−	−	16
43	クレー射撃		−	14	0	0	−	−	−	14
44	なぎなた		−	65	7	12	1	−	−	85
45	ボウリング		−	14	0	5	0	0	−	19
46	ボブスレー・リュージュ・スケルトン		−	0	0	1	1	−	−	2
47	綱引		−	2	0	−	−	−	−	2
48	ゲートボール		−	24	0	−	−	−	−	24
49	ゴルフ		−	6	0	0	0	−	−	6
50	カーリング		−	8	0	0	0	−	−	8
51	パワーリフティング		−	13	0	−	−	−	−	13
52	グラウンド・ゴルフ		−	2	0	−	−	−	−	2
53	トライアスロン		−	18	0	−	−	−	−	18
54	バウンドテニス		−	4	0	−	−	−	−	4
55	エアロビック		−	15	1	0	0	0	−	16
56	バイアスロン		−	0	0	0	0	−	−	0
57	ドッジボール		−	3	0	−	−	−	−	3
58	チアリーディング	チアリーディング	−	1	0	1	−	−	−	2
59		チアダンス	−	0	0	0	−	−	−	0
60	ダンススポーツ		−	4	0	1	−	−	−	5
61	ローラースポーツ		−	0	0	−	−	−	−	0
62	アメリカンフットボール		−	26	0	0	−	−	−	26
63	プロゴルフ		−	0	0	−	−	5	5	10
64	プロテニス		−	0	0	−	−	13	10	23
65	プロスキー		−	0	0	−	−	0	4	4
66	スクーバ・ダイビング		−	20	4	−	−	−	−	24
67	その他		−	0	0	−	−	−	−	0
合計			4	3,871	292	969	261	111	39	5,547

＊同一資格で異なる競技を有する場合にはそれぞれの競技に1人分を計上。

＊:「−」は現在養成を行っていない資格・競技。